



園だより

文京区立第一幼稚園

令和4年度1月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

多様性を受け入れて育ち合う力

園長 田村 秀子

新年 おめでとうございます。穏やかな晴天に恵まれ、お正月はご家族で楽しく過ごされたことと思います。お餅やおせち料理を食べたり、お正月の遊びをしたりなど、日本の文化に触れたお子さんも多いことでしょう。幼稚園には今日からまた、大勢の子供たちの元気な声が響き始めました。新たな年に一人一人が希望をもち、集団生活の中でさらに経験を広げてそれぞれの力を伸ばしていけるよう、教職員皆で力を合わせてまいります。本年もどうぞよろしく願いいたします。

さて、今年は「うさぎ年」です。登園するとさっそく玄関のウサギを見て「エルちゃんの年だね」と言っている子もいました。干支は本来「十干」と「十二支」を組み合わせたもので、今年「十干」では「葵」、「十二支」では「卯年」なので、干支は「葵卯（みずのとう）」となるそうです。「葵」には「種子が計ることのできるほどの大きさになり、春の間近で開く直前である」という意味、「卯」には「冬の門が開き、飛び出る」という意味があり、それらの組み合わせである「葵卯」は「これまでの努力が花開き、実り始めること」という縁起のよい意味があるそうです。コロナ禍が続き、戦争が止められず、不安なことの多い時代ですが、日々を一生懸命に生きてきた人々の努力が花開き、身に付けた力が大きな成長や幸せにつながる年であるようにと祈ります。

園では、様々な子供たちが一緒に集団生活を送っています。皆、それぞれ得意なことがあり、苦手なこともあります。大きな音、手触り、環境の変化、人の視線などが気になる子もいます。言葉では言えないけれど、嫌な気持ちの時やどうしたらいいかわからない時などに、部屋から出て行ったり、大声を出したり、怒ったりする子もいます。自分の予想と違うことが起きたり、勝ち負けのある遊びで負けた時などは、そのような行動が出やすいようです。

そんな時、友達のことを心配そうに見ている子がいます。怒っている子と関わっている先生が「今はトゲトゲした気持ちみたいだから、そっとしておいた方がいいかもね」と言うと、少し離れて見えています。そして気持ちが落ち着いてくると、安心したように近付いてきて、「これ、やろうか」と遊びに誘っています。そして反対に、声をかけてくれた子が泣いている時には、先日怒っていた子が心配そうに近寄って、頭をなでたり、おもちゃを届けたりしています。言葉でうまく伝えられなくても、相手の様子を見て気持ちを感じ取り、気持ちが落ち着かない時は距離を置いたり、近付いたり、自分にできることで慰めようとしていたりしています。

自分も頑張っていること、相手も頑張っていること、それぞれ思いがあること、誰でも泣いたり怒ったりすること、友達が嬉しいと自分も嬉しいことなどを感じ、学んでいる子供たちです。多様性の時代を生きる力の基礎が、柔らかな心の幼児期に、園生活の中で培われていることを感じます。

子供は保護者や園の先生、地域の方など身近な大人の姿から学んでいくことも多いと思います。日々成長している子供たちの思いを理解しようと努めたり、相手の思いや大変さを想像してみたり、互いに思いやりをもって行動したりすることが、子供たちの心の成長につながります。

3学期も、お正月遊びや運動遊びなど様々な遊びや活動の中で、子供たちが自分のやりたいことにチャレンジしたり自分の思いを表現したりできるようにし、互いに認め合い、育ち合えるようにしていきたいと思います。寒さが厳しくなりますが健康に気を付けて、皆で元気に過ごしていきましょう。